

三五六七番

置おきて行いかば 妹いもはまかなし 持もちて行ゆく 梓あじさ
の弓ゆみの 弓ゆづか束つかにもがも

三五六八番

後おくれ居ゐて 恋こひば苦くるしも 朝あさ狩がりの 君きみが弓ゆみにも
ならましものを

三五六九番

防さきもり人に 立たちし朝あさ明けの 金かな門と出でに 手た離ばなれ惜をしみ
泣なきし児こらはも

三五七〇番

葦あしの葉はに 夕ゆふ霧ぎり立たちて 鴨かもが音ねの 寒さむき夕ゆふし 汝な
をば偲しのはむ

三五七一番

己おのづま妻まを 人ひとの里さとに置おき おほほしく 見みつつそ来き
ぬる この道みちの間あひだ